

夏祭りや花火大会での火災を防ごう

調理器具や照明器具などの火気器具は使用方法を誤ると、火災につながります

カセットこんろやガスボンベなどの調理器具は、屋外での調理に際し、便利な器具ですが、間違った方法で使用すると大変危険です。

また、熱を発生する照明器具は、可燃物が接触することで出火する危険性があります。



屋外での催しに際し、火災にご注意ください

夏になると花火大会や夏祭りなど多くの人が集まる楽しい催しが行われます。

多くの人が集まる催しでひとたび火災が起きると、大きな被害につながるおそれがあります。

楽しい夏の思い出にするために、屋外で火気器具を使うときには以下の注意点を必ずお守りください。

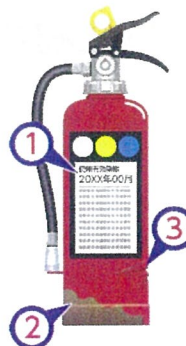


《火気器具を使うときには》

（1）消火器の準備

万が一のとき、適切に消火できるよう、消火器を準備しましょう。

錆びていたり、変形していたりする消火器は使わないでください。

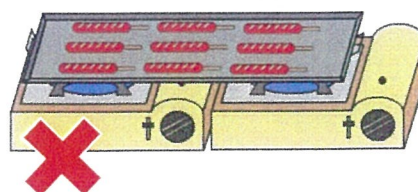
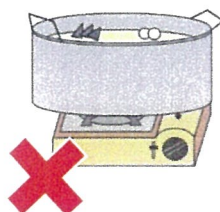


- ① 耐用年数が過ぎている
- ② 錆びている
- ③ 変形している

（2）カセットこんろは正しく使う

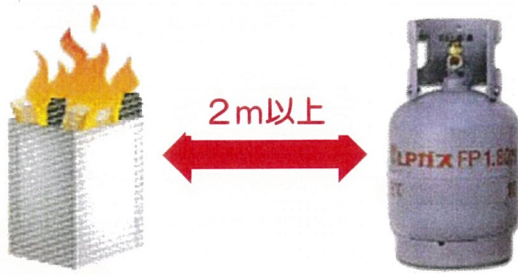
カセットこんろより大きな鍋を載せたり、こんろを並べて使わないでください。ボンベが加熱され、破裂して爆発する危険があります。

また、燃料ボンベは容器の切り込み部分を本体容器受けガイドの突起部分に正しく合わせて取り付けてください。ガスが漏れて引火する危険があります。



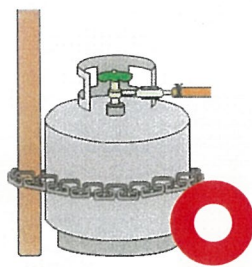
(3) ポンベの取扱いに注意 そして固定はしっかりと

ガスポンベは、平らで直射日光の当たらない風通しの良い場所に設置しましょう。

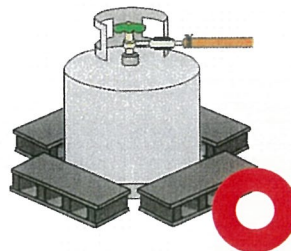


・ガスポンベは火気から2m以上離して保管しましょう。
出典：東京都環境局Webサイト

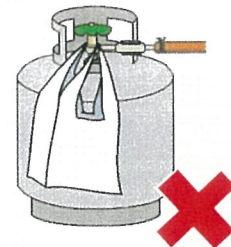
ガスポンベが転倒するとガスが漏れるなどの危険があります。
転倒しないようにしっかりと固定してください。



鎖で固定



ブロックで固定

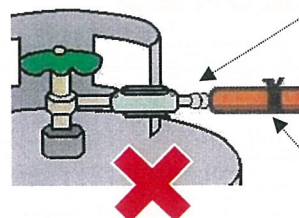
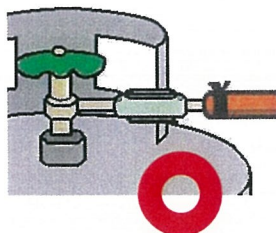


物を引っ掛けない

(4) ゴムホースは、点検し確実に取り付け

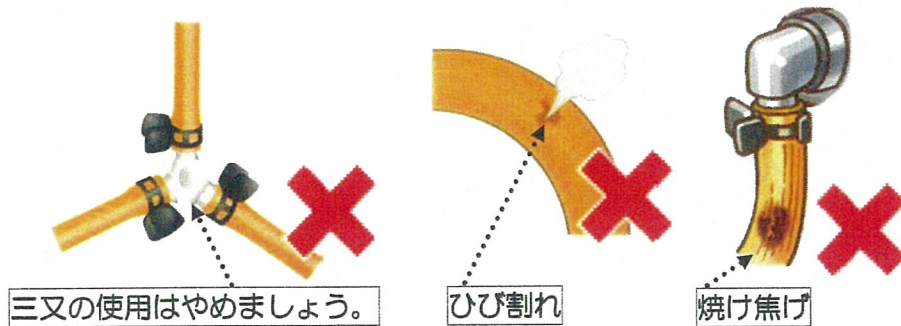
ガス器具のホースは、ひび割れ等のないものを使用して、しっかり差し込み、バンドなどで締めましょう。

ホースの差し込みが足りないと、ガスが漏れて引火するおそれがあります。
ひび割れ等がないか確認するとともに、ホースバンドなどで締め付けてください。



差し込みが足りない

接続部分を締め付けていない

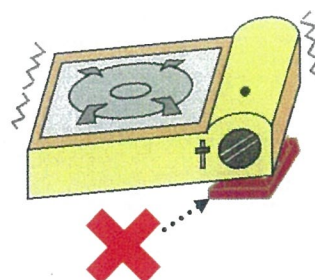
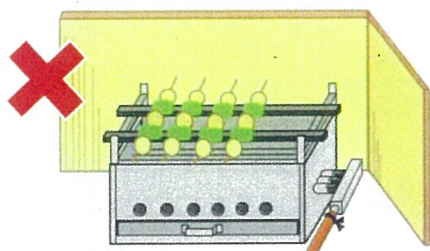


- 三又を使った接続は、正しい燃焼を阻害します。三又を使用しないようにしましょう。
- ひび割れや、焼け焦げしているゴムホースは、ガス漏れの原因になりますので交換しましょう。

出典：高圧ガス保安協会

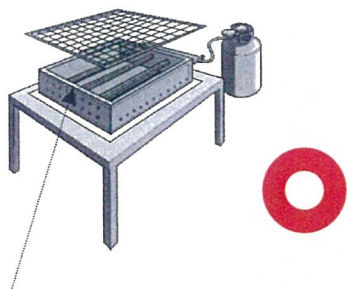
(5) 器具の周りは整理整頓

器具の周りは整頓をし、ダンボールなどの燃えるものを近くに置いたり、不安定な状態で使ったりしないようにしてください

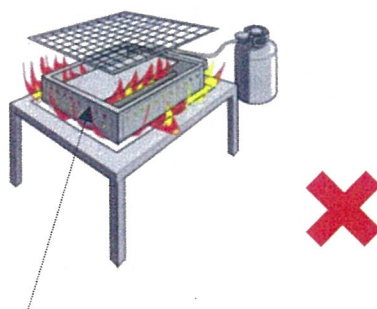


(6) 設置方法をしっかり把握

器具の設置方法を正しく理解しましょう。設置方法を間違えると、可燃物との安全な距離が保てず、火災となる恐れがあります。

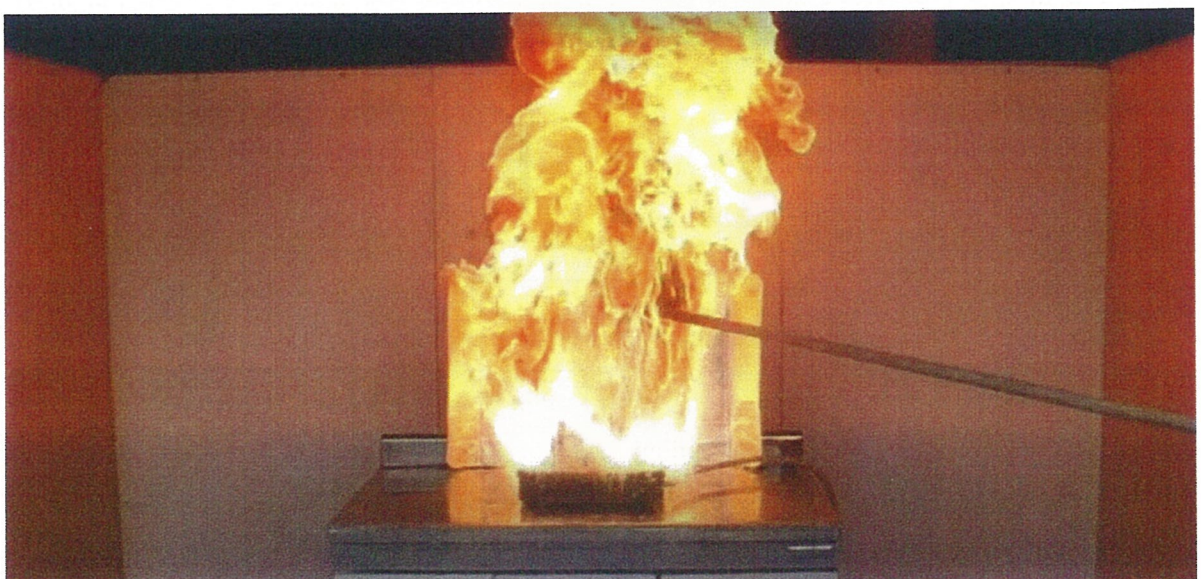


バーナーは上向きに設置



バーナーを下向きに設置しない

【天ぷら鍋火災】



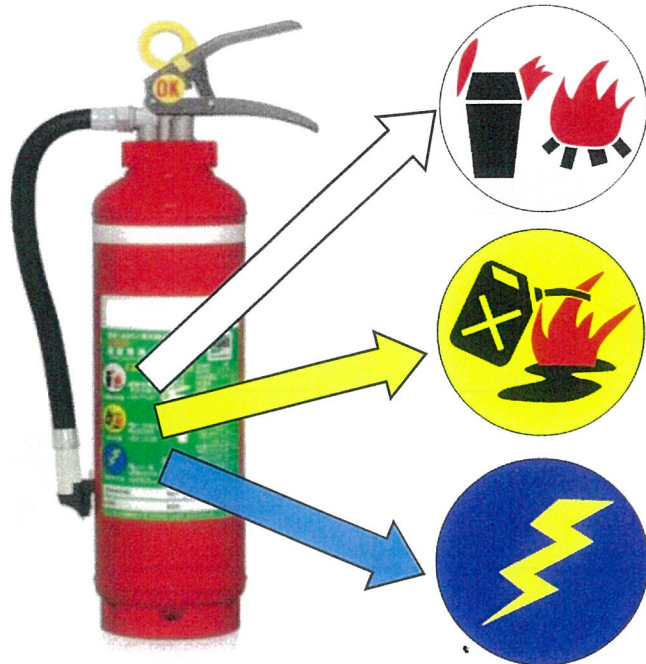
消火器

1 機器を理解しよう

消火器には、色々な種類がありそれぞれ火災に適應する消火器があります。消火器の大きさ、消火薬剤の種類によって消火の能力が違うので、それぞれの火災に適應したものを使う必要があります。

◀ 消火器の種類 ▶

①消火器の表示で、対応する火災がわかるようになっています。



◆普通火災
木、紙、繊維などが燃える火災

◆油火災
灯油やてんぷら油などが燃える油の火災

◆電気火災
変圧器、配電盤などが燃える電気設備の火災

②消火器の中の消火薬剤にも種類があります。

◆粉末消火器（10型の場合）

性能

- 放射時間：約15秒
- 放射距離：約3m～5m

特徴

- 素早く消火できるが、浸透性がなく再燃の可能性がある。
- 再燃防止には更に水をかけるなどをする必要がある。

◆強化液消火器（3型の場合）

性能

- 放射時間：約35秒
- 放射距離：約3m～8m

特徴

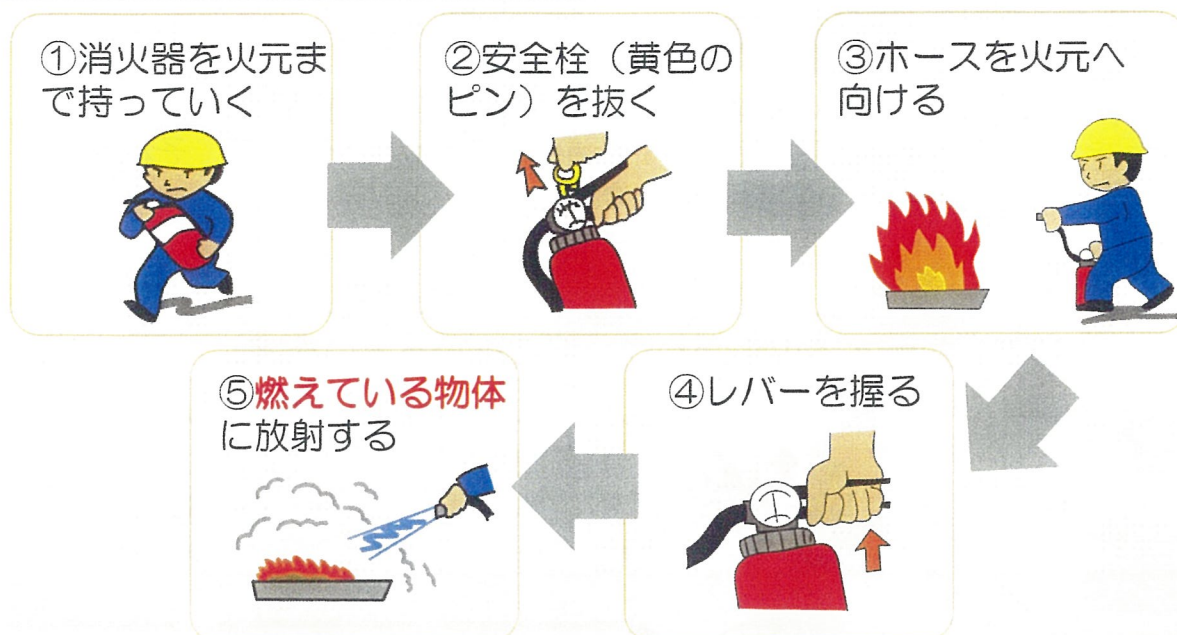
- 冷却効果が高く、消火液のかかった部分は再燃しにくい。
- 浸透性があるため、木材などの火災には特に有効。

※ 消火器の種類によって性能が違うので、注意しましょう。

◆適切な距離から消火しましょう。

- 事業所などによく設置されている粉末消火器（10型）の放射距離は平均3～5mです。消火する際は、火に近づき過ぎず少し離れたところから徐々に近づき、適切な距離を保ちましょう。

2 操作方法を知ろう！！



3 覚えておきたい注意点！！

① どの程度の火までなら消火できるの？

- ✓ 炎が天井まで達している場合は消火器での消火はできません。避難を開始しましょう。



②消火器を使う時の注意事項は？

◆必ず退路を確認しましょう。

- 部屋が暗い場合や煙が充満している場合は、消火器の消火薬剤などで部屋の視界が悪くなり、部屋の出入口を見失ってしまいます。



◆姿勢を低くしましょう。

- 煙には熱気や有毒な成分が含まれています。姿勢を低くして煙を吸わないようにしましょう。
- 消火器での消火による吹き返しや、燃烧物の飛散にも十分に注意しましょう。



◆近くの消火器を集めましょう。

- 消火器の放射時間は平均15秒と短いです。近くの消火器を集めて、複数使用すると効果的です。
- 消火器は、1フロアで歩行距離20mごとに設置されています。フロアごとの消火器の位置を覚えておきましょう。